

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、当社の電話会議にご参加いただきありがとうございます。ありがとうございます。

取締役兼常務執行役員、管理部門統括の大槻でございます。本日はよろしくお願い申し上げます。

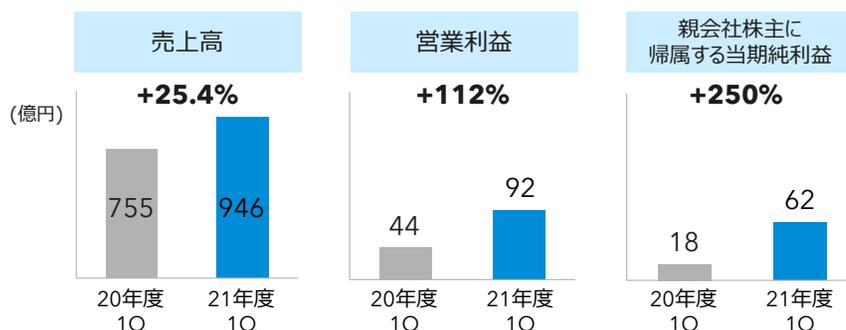
お手元の資料に基づきまして約30分で、簡単にポイントを説明させていただきます。

決算のポイント



第1四半期実績

- ・原燃料価格高騰の影響あるも、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移、
加えて自動車関連の需要も回復し、増収増益
- ・営業利益 92 億円（2.1倍）、当期純利益 62 億円（3.5倍）



2022年3月期通期予想

- ・原燃料価格高騰の影響懸念も、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移しており、
営業利益 290 億円に上方修正。当期利益 130 億円を予想

2

2ページ目をご覧ください。決算のポイントでございます。

第1四半期の実績です。1Qは、原料価格高騰の影響を相応に受けましたが、工業用フィルム、PCR検査試薬などが堅調に推移をいたしました。加えて、エンジニアリングプラスチック等の自動車関係部材の需要も、相応に回復し、増収増益の決算となっております。

下のグラフ、営業利益は92億円で、昨年同期比で2.1倍の増益、当期純利益も62億円で、大幅な増益でございました。

本日説明をさせていただく前提といたしまして、少しテクニカルな要因がございますので、冒頭に説明させていただきます。

連結子会社で、帝人から譲り受けました東洋紡フィルムソリューションのフィルム事業について、これまで12月決算期で連結をしてまいりました。皆さんもご存知のとおり、3カ月程度のずれは連結決算では認められておりますので、今年の春に発表いたしました連結決算におきましては、東洋紡フィルムソリューションの12月までの決算の数字を連結しておりました。今年の4月1日付で、この連結子会社は東洋紡本体と合併をしておりますので、決算を東洋紡本体の数字として合算することになります。結果として、連結子会社の今年の1月から3月の3カ月分の数字が宙に浮いた形になりますので、これを1Qの連結決算に合算して

おります。認められた処理でございますが、この部分がいわゆる下駄を履いた状態になっており、この金額が売上高で約70億、営業利益と経常利益におきまして双方それぞれ約10億が、1Qの数字に決算書類上、テクニカルに加算されているということでございます。昨年度と比較いただく場合には、その部分を差し引いていただくというのが実質的な比較になりますので、よろしくお願いを申し上げます。

下の22年度3月期の業績予想でございますが、2Q以降も原燃料価格の高騰の影響がいよいよ本格的に効いてまいります。コロナの再拡大による不透明の要因もあろうかと思っております。とはいいながら工業用フィルムは依然として好調でございますし、コロナが継続するということになりますと、PCRの検査試薬が、当初見ていたよりも少し息が長く需要が続くであろうと予想をいたしますので、そのあたりも勘案し、従来公表してまいりました営業利益270億円を20億円増額し、290億円に修正をしております。併せて当期利益も115億円から130億円に上方修正いたしました。

決算サマリー | PL



(億円)

	20年度 1Q	21年度 1Q	増減	
			金額	率
売上高	755	946	+192	+25.4%
営業利益	44	92	+49	+112.1%
(率)	5.8%	9.8%	-	-
経常利益	28	75	+47	+170.2%
特別損益	▲ 4	▲ 5	▲ 1	-
親会社株主に帰属する当期純利益	18	62	+44	+249.8%
EBITDA*	88	143	+55	+61.9%
EPS (円)	19.9	69.5	-	-
減価償却費	45	50	+6	+12.8%
設備投資	61	73	+12	+19.0%

3

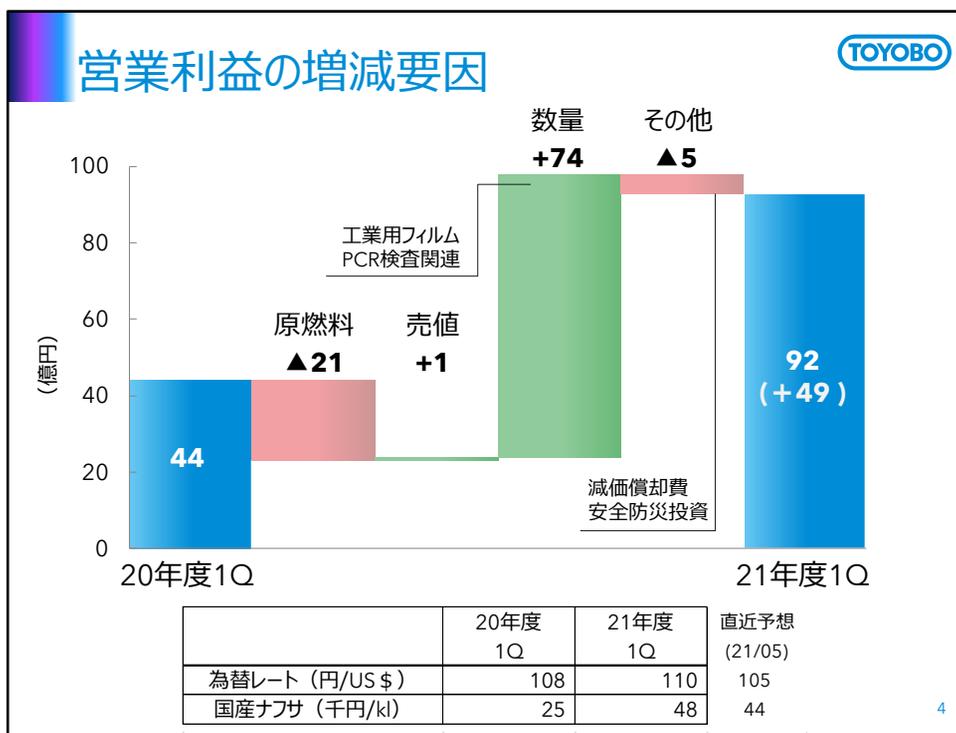
3ページは、PLのサマリーでございます。

昨年度の1Qは、コロナで最も売上高を減らした時期でございますので、そこを底と考え比較しますと、この表のとおり売上高では192億円の増収、営業利益も49億円の増益でございます。

1Qの946億円は、リーマンショックの頃の2008年1Qの971億円以来の高水準でございます。

営業利益の92億円も、冒頭に申し上げたとおりテクニカルな要因ございますが、四半期開示が制度としてスタートした2003年からの数字をさかのぼりましても、四半期の最高益になろうかと思えます。

概要は以上でございます。



続いて、4ページは、営業利益の増減要因の分析でございます。

今年度は、何といたしまして、まず原燃料の部分が21億円ほどマイナス要因として、昨年度同期比インパクトがあったこととございます。一番下の段の上に国産ナフサの数字を書いております。20年度1Qは2万5,000円でしたが、21年度は4万8,000円まで上昇いたしました。当社の場合、国産ナフサ1,000円増減いたしますと、直接的な年間の影響額が約5億円とございます。したがって、単純に計算いたしますと、2万3,000円の値上がりでございますので、これに5億円を掛け、四半期でございますので4分の1をしますと、29億円と単純に計算されます。30億円弱になりますが、この理論値に比べると原燃料21億円で、小幅に留まりました。昨年度からのタイムラグがあり、単純にそのままの数字が即反映するわけではございませんので、原燃料の部分は21億円に留まりました。留まったといわれても結構大きいので、これを何とか売上に転嫁すべくということで努力を続けてきましたが、残念ながら売値は売値転嫁できたものがプラス1億円とございました。東洋紡は、いろいろな素材がございまして、包装フィルムなどは比較的原燃料の増加が早く影響してまいります。値上げ交渉を一所懸命おこない、その効果が現れるのは2Q以降になると見込まれますので、残念ながらこのあたりは売値の転嫁は少しできなかった期であったとご理解いただきたいと思います。

併せて、工業用フィルム、SRF等でございますが、原燃料が上がったからといって値上げできるという業界ではございませんので、このあたりも非常に値上げに

は苦しみました。ただし、それをカバーしたのが数量要因でございまして、右の数字74億円でございます。中身については工業用フィルム、うちSRFが非常に好調でございますので、売値はなかなか厳しいですが、何とか数量でプラスになりました。昨年度はまだSRFの3号機が稼働しておりませんでしたので、1Qだけで見ますと、現在3号機が順調にきている部分の数量効果はあったということでございます。それから、PCR検査関連もワクチンの浸透とともにそろそろ落ちていくのではないかと見ておりましたが、事実としてはPCR検査の件数が落ちておらず、そのあたりの数量効果がございました。加えて、この中には冒頭に申し上げたTFSのテクニカルな1-3月分の約10億円が乗っているということでご理解いただきたいと思っております。その他の素材も、コロナからそれぞれ回復に向かっているところもございますので、合計いたしますと約74億円のプラスの効果があったということでございます。

「その他」の要因としてはマイナス5億円で、かねてより説明申し上げている、安全防災投資などの増加分や先行投資をしてきており、昨年と比べると減価償却が増えていることもあり、合計しますと92億円で、49億円の増加でございました。

決算サマリー | BS



	(B)		(A)	(億円)
	20/3末	21/3末	21/6末	
総資産	4,889	4,912	4,924	+12
現預金	252	347	261	▲ 86
たな卸資産	806	763	813	+50
有形固定資産	2,315	2,246	2,271	+25
純資産	1,826	1,886	1,936	+49
自己資本	1,779	1,857	1,907	+50
うち利益剰余金	619	644	669	+25
非支配株主持分	47	29	29	▲ 0
有利子負債	1,751	1,870	1,841	▲ 28
D/E レシオ	0.98	1.01	0.97	-
Net D/E レシオ* <small>(有利子負債-現預金) ÷ 自己資本にて算出</small>	0.84	0.82	0.83	-

5

5ページのBSについて、簡単にご説明申し上げます。

まず現預金のところが261億円でコロナ前の水準に戻ってきております。金融環境は安定しておりますので、コロナ前の水準の250-260億円というベースに戻したということでございます。

棚卸資産が少し増えております。全国的な傾向かもしれませんが、コロナから状況が回復しておりますので、適正な供給責任を果たすためにも備蓄在庫を若干増やしているという傾向にあります。

一番下のD/Eレシオは1Qとしては、税金や配当などいろいろ資金流出がありますが、何とか1Q末でD/Eレシオ 0.97、われわれが目標としております1.0前後をキープした水準で収めることができっております。

決算サマリー | セグメント別



(億円)

	売上高		営業利益		
	20年度 1Q	21年度 1Q	20年度 1Q	21年度 1Q	増減
フィルム・機能マテリアル	363	457	39	68	+29
モビリティ	68	111	▲7	▲5	+2
生活・環境	229	277	3	15	+11
ライフサイエンス	63	75	10	19	+9
不動産・その他	31	26	5	4	▲1
消去・全社	-	-	▲7	▲8	▲1
合計	755	946	44	92	+49

6

6ページは、セグメント別の売上高と営業利益でございます。

売上高をそれぞれ比較すると、まず、フィルム・機能マテリアルでは94億の増収でございます。このうち、テクニカルに東洋紡フィルムソリューションの最後の連結の3カ月分が約70億円でございますので、これを除きますと25億円の増収でございます。もっばらSRFなどを中心に好調であったとご理解いただければと思います。その他、モビリティ、生活・環境についても、それぞれ昨年度1Qの底と比べると増益増収基調に変わってきております。

営業利益も主に増益を達成したのは、フィルム・機能マテリアルでございますが、モビリティも若干ではございますが、営業赤字が改善し、エンジニアリングプラスチック中心に、改善の基調になってきております。生活・環境もいろいろな素材があり、コロナの特需関連は少し落ち着きを見せておりますが、その反面スーパー繊維や産業分野の素材が回復基調になってきておりますので、そのあたりで増収ございました。ライフサイエンスは、PCR関連の素材が引き続き量が出ましたので、それを中心に増収増益とご理解いただきたいと思います。

フィルム・機能マテリアル

TOYOBO



	20年度 1Q	21年度 1Q	増減 (億円)	
			金額	率
売上高	363	457	+94	+26.0%
営業利益	39	68	+29	+73.9%
(率)	10.8%	14.9%	-	-

包装用フィルム

- 新型コロナウイルス禍の中、巣ごもり需要は継続
- 火災事故により、一部の製品は販売減少
- 原料価格高騰の影響を受ける

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”は、新ライン（3号機）の本格稼働により、約30%増収
- セラコン用離型フィルムは、新ライン（加工設備）の本格稼働により、約25%増収
- 東洋紡フィルムソリューション（株）を吸収合併（2021年4月1日）



機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、国内外で販売堅調

7

7ページ以降のセグメントごとの説明に入らせていただきます。まず7ページのフィルム・機能マテリアルでございます。

包装用フィルムは、新型コロナウイルス感染症の影響でいろいろと不透明な部分がございますが、依然として巣ごもり需要が続いております。それから、当社の事業といたしまして、昨年9月にオレフィン系のフィルムで火災事故があり、一部の製品は販売を減らしております。現時点ではシェアを落とさないようにOEM品で一所懸命対応している状況が続いておりますが、コストが非常に高いということで、このあたりでも包装用フィルムは、所定の利益を上げることができていない状況でございます。それから、原燃料高騰の影響も受けました。冒頭申し上げたとおり、値上げ交渉は、1Qは非常に苦戦いたしました。2Qからは値上げを見込み、新しい売値で商売を始めることができるだろうと思っております。とはいいながら、引き続き原料が上がってきて、次の値上げが必要になってきておりますので、お客様にご理解いただけるかどうかを、現在、一所懸命ワークしているという状況が続いており、2Q以降も決して安穏としておられるような状況ではありません。

工業用フィルムにつきましては、コスモシャインSRFは、3号機が本格稼働いたしております。約30%の増収でございます。ただし、繰り返しになりますが、この業界は値上げはなかなか難しいわけでございます。したがって、3号機の数量の増量効果、それから歩留まり・生産効率、そのあたりでどこまでカバーでき

るかが今後の大きな課題と思っております。また、セラコン用の離型フィルムも好調でございまして、約25%の増収でございます。帝人から買収いたしました宇都宮でミドルエンドのフィルムを作っており、我々といたしましては、セラコン用の離型フィルムのラインナップが揃ってきているということで、相乗効果も含めて、少し長い時間軸にありますけれども、シェアを上げていけるのではないかと考えているところでございます。

モビリティ



	20年度 1Q	21年度 1Q	増減		(億円)
			金額	率	
売上高	68	111	43	+63.0%	
営業利益 (率)	▲ 7 -	▲ 5 -	2 -	- -	

新型コロナウイルス禍からの世界的な自動車需要の回復に伴い、販売は堅調

エンジニアリングプラスチック

- 国内・海外ともに、販売が回復

エアバッグ用基布

- 販売は回復するも、原料価格の急騰により販売価格とのスプレッドが縮小し、苦戦

8

8ページは、モビリティでございます。

モビリティの売上高は111億円で、昨年度に比べますと43億円の増収でございます。昨年度はコロナウイルス禍による落ち込みも大きくて心配しておりましたが、何とか車の生産回復に伴い、回復してまいりました。また、目先、車の生産については皆さんもご認識のとおり、不安定な要素もございますが、第1四半期に限りますと順調に回復基調に乗せることができたと思っております。

エンプラの品質問題につきましては、皆様大変ご迷惑をおかけして、本当に申し訳ございませんでした。お客様ごとに真摯に対応を進めてまいり、結果といたしまして、現時点では大きなお客様を失うだとか、リコール、あるいは大きな補償に展開をしまいそうな状況にはございません。何とか認証も再取得をしていくというステージに少しずつ入ってきている状況でございます。絶対に再発させないよう、社内でもかなり議論いたしまして体制を整えてきております。

次に、エアバッグは、販売も少しずつ回復してきておりますが、原料価格が高騰しており、販売価格とのスプレッドが悪化いたしました。受注ベースでは期後半につきましても、割と固めの数字で取れてはおりますが、収益的にはまだ敦賀事業所の火災で自社系がない状況が続きますので、そのあたりで収益的には厳しい状況が続くと見ております。

	20年度 1Q	21年度 1Q	増減	
			金額	率
売上高	229	277	48	+21.1%
営業利益	3	15	11	+338.0%
(率)	1.5%	5.4%	-	-

(億円)

環境ソリューション

- VOC処理装置は、新型コロナウイルス禍で、一時的に受注が減少し、苦戦

不織布

- 長繊維спанボンドは、販売伸ばすも、原料高の影響あり
- 機能フィルターは、マスク向けは販売減少も、空気清浄機や自動車関連製品の販売堅調

繊維機能材

- ポリエステル短繊維は、原料高の影響あり
- スーパー繊維は、“イザナス”は釣糸・ロープ用途、“ツヌーガ”は耐切創手袋の販売堅調

衣料繊維

- 新型コロナウイルス禍による店頭販売の不振などで、スポーツ・ユニフォーム用途、中東向け特化生地は、販売回復せず

9

9ページは、生活・環境でございます。それぞれ、まだら模様でございます。

環境ソリューションにつきましては、昨年度、新型のコロナウイルスが広まる過程でなかなか受注活動ができませんでした。その影響が今年度に影響してくることで、今年度は少し苦戦をしそうだと見ております。

不織布、спанボンド、それから機能性フィルターにつきましては、コロナの特需が剥がれてきましたが、空気清浄機や自動車関連製品の販売が比較的堅調になってきており、全体としての回復基調が続いております。

繊維機能材につきましては、ポリエステルの短繊維は、昨年度は除菌シートやマスク材の特需で非常に収益を支えてくれたのですが、その特需については、少し剥がれてきたというところがございます。原燃料の影響もでございます。代わりに、スーパー繊維、イザナス、ツヌーガの高機能繊維でございますが、産業用途が、お客様の工場の稼働率も上がってまいりましたので、本格的に回復してきたという実感を持っております。

苦しいのは衣料繊維でございます。このあたりは店頭販売が非常に不振に陥っておりまして、スポーツ、ユニフォーム用途、中東向け、販売はなかなか回復してこない状況が続いております。昨年度との比較で見ると、約15%落ち込んだ状態が続いております。なかなかここから抜け出せない状況で、少し厳しい状況が続

いている状況でございます。

ライフサイエンス

TOYOBO



(億円)

	20年度	21年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	63	75	+11	+18.0%
営業利益	10	19	+9	+86.6%
(率)	15.7%	24.9%	-	-

バイオ

- PCR検査用原料・試薬、遺伝子検査装置・診断薬の販売が拡大

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売堅調

医薬

- 医薬品製剤製造受託事業は、GMP対応のため、操業を一時停止した影響により低調



10

10ページは、ライフサイエンスでございます。

冒頭申し上げましたバイオは、依然としてPCR関連の部材が好調でございます。増収が11億となっておりますが、ほとんどの増収部分はPCR関連の原料や試薬でございます。

メディカルにつきましても、需要は引き続き強い状況が続いております。

医薬につきましても、GMP対応が若干続いており残念ながら低調に終わっております。

2021年度業績見通し



原燃料価格高騰の影響懸念も、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移しており、営業利益 290 億円に上方修正。当期利益 130 億円を予想

(億円)

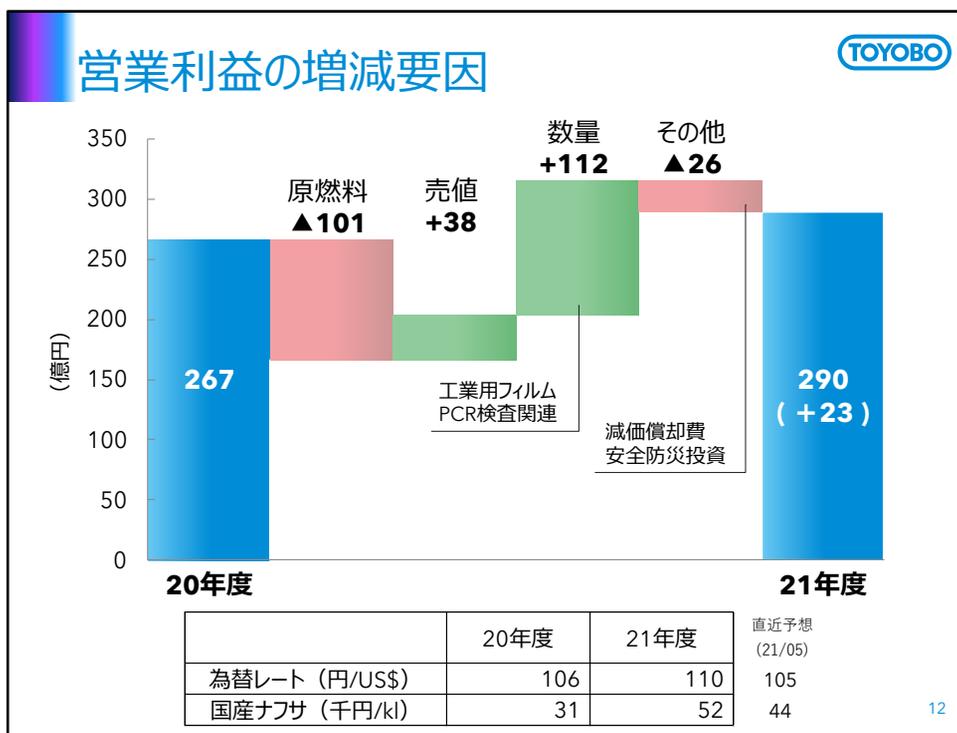
	20年度	21年度	増減		直近予想 (21/5)
	実績	見通し	金額	率	
売上高	3,374	3,650	+276	+8.2%	3,600
営業利益	267	290	+23	+8.8%	270
(率)	7.9%	7.9%	-	-	7.5%
経常利益	207	240	+33	+15.9%	220
特別損益	▲ 151	▲ 52	-	-	▲ 50
親会社株主に帰属する当期純利益	42	130	+88	-	115
EBITDA	458	490	+32	+7.1%	470
EPS (円)	47.3	146.3	-	-	129.5
減価償却費	191	200	+9	+4.7%	200
設備投資	233	310	+77	+33.3%	310
配当 (円)	40.0	40.0	-	-	40.0

11

11ページは、21年度の業績見通しでございます。

冒頭申し上げましたとおり、期後半原料価格の高騰でかなり苦しむだろうと思っております。

ただし、工業用フィルムは数量が確保できるであろうと見込んでおり、PCR検査試薬も堅調に推移する前提で、営業利益は290億円に上方修正をいたしました。1Qで、これだけ利益を稼ぎましたので、単純にそれを4倍したらもっといくだろう等、いろいろ見方はあろうかと思うのですが、やはりこれから先は原燃料の転嫁が非常に大きく効いてくると思っております。この290億円の前提としましては、繰り返しになりますが、PCR関連は、コロナの感染者が減少せず、検査の需要が落ち込まない状況がしばらく続くこととみて、2Qあたりまではこの現行水準がステイするという前提、それから車関係の製品もいろいろございますので、回復傾向が続くという前提にしております。



12頁は、通期の営業利益見通しの増減要因の分析でございます。

原料価格の上昇は見ておりますが、これ以上大幅な上昇にはならないという条件を前提におきまして、この290億円という予想をしております。

営業利益の増減要因をお示ししておりますが、繰り返して申し上げますと、一番下に記載してございます、21年度通年のナフサが約5万2,000円で、単純に比較して計算しますと105億円という原料影響になります。101億円ぐらいとおいてグラフを作りましたけれども、転嫁率は38億円で38%の転嫁率でございます。

これを、1Qでは数量でかなり稼いでいるのですが、2Q以降も、若干プラスアルファがあるだろうということで、112億円程度にはなるのではないかと見ております。

代わりに安全投資、減価償却費も出てまいりますし、人件費もいろいろな議論の中でもう少し増やしていかないと、将来仕込みができないということで、増加傾向にございます。トータルで2Q以降26億円ほどはマイナス要因が出るだろうと予想し、最終290億円としております。

セグメント別見通し



(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (21/5)
	20年度 実績	21年度 見通し	20年度 実績	21年度 見通し	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,528	1,700	200	203	+3	200
モビリティ	366	400	▲ 16	▲ 10	+6	▲ 14
生活・環境	1,091	1,130	44	52	+8	46
ライフサイエンス	271	300	45	60	+15	53
不動産・その他	118	120	23	23	▲ 0	23
消去・全社	-	-	▲ 30	▲ 38	▲ 8	▲ 38
合計	3,374	3,650	267	290	+23	270

13

13頁は、セグメント別の状況でございます。

お示ししているとおりでございます。合理的に今の状況で見積もられる範囲で見積もり、営業利益は290億円といたしました。

品質の不適切事案の再発防止



【品質の不適切事案の経過】

- ・**プラナックのUL認証取消し**（2020年10月28日）
- ・**プラナックの不適切事案に関する調査結果報告**（2020年12月29日）
- ・ISO9001 エンプラ事業総括部の認証取消し、
機能マテリアル生産技術総括部の認証一時停止（2021年1月28日）
- ・**バイロペット、グラマイト、ペルプレン UL認証取消し**（2021年2月3日）
- ・**品質保証本部を2021年4月1日付で新設**（2021年2月25日）
各事業部門の品質保証総括部および品質保証部を、品質保証本部下に配置。
品質保証部門の独立性を担保。事業部門に対する牽制機能強化
- ・**バイロアミド、PPS樹脂、グリラックスの一部の品番 UL認証取消し**（2021年3月26日）
- ・**ISO9001機能マテリアル生産技術総括部の認証範囲の一時停止解除**（2021年6月9日）

UL関係の不適切事案について調査完了

当社と顧問契約・委任関係がない弁護士事務所、
社外取締役および監査役から構成されるプラナック等事案対応委員会において、
プラナック以外の素材についても調査完了

14

最後に14ページに、ご心配おかけいたしましたエンジニアリングプラスチックの品質の不適切事案について、これまでの対応をまとめております。

少しずつ事態はクリアになってきていると認識をしております。ULの再取得について手続きを始めている状況でございます。お客様の事情もございましたので、逐一のリリースはさせていただく予定はございませんが、順調に進んでいるとご理解いただければと思います。

併せて、ISO9001につきましても、徐々に審査を受けておりました、再取得に向けて少しずつ対応を進めております。機能マテリアル生産技術総括部はISO9001について一時停止解除となり徐々に進んでいるということでございます。

総合的に現時点で、大きな顧客離れ、あるいはリコール、巨額の補償といったことには今のところ展開しそうにないと見ているところでございます。

少し駆け足になりましたが、私からは以上でございます。ありがとうございました。

ご注意



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved



All Rights Reserved



セグメント別情報



(億円)

売上高	20年度					21年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム・機能マテリアル	363	375	392	398	1,528	457
モビリティ	68	82	105	111	366	111
生活・環境	229	273	271	319	1,091	277
ライフサイエンス	63	60	69	79	271	75
不動産・その他	31	31	27	29	118	26
消去・全社	-	-	-	-	-	-
合計	755	821	864	935	3,374	946

営業利益	20年度					21年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム・機能マテリアル	39	48	56	57	200	68
モビリティ	▲7	▲6	▲4	1	▲16	▲5
生活・環境	3	14	12	14	44	15
ライフサイエンス	10	6	16	14	45	19
不動産・その他	5	6	6	7	23	4
消去・全社	▲7	▲7	▲8	▲8	▲30	▲8
合計	44	61	79	84	267	92

18

2018年中期経営計画(2021年度最終年)



火災事故に加え、新型コロナウイルス感染症拡大など、前提条件が変化



	20年度	目標
売上高(億円)	3,374	3,750
海外売上高比率(%)	33.0	35.0
営業利益(億円)	267	300
営業利益率(%)	7.9	8.0
親会社株主に帰属する 当期純利益(億円)	42	160
ROE(%)	2.3	≥8.0
ROA(%)	5.4	≥7.0
D/ELシオ	1.01	<1.0

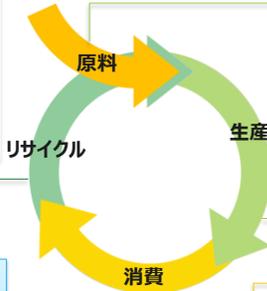
廃棄物ゼロへの実現へ | サーキュラーエコノミー



- **マテリアルリサイクル**
 - ・リサイクル性に優れたポリエステル重合触媒
"TOYOBO GS Catalyst"
- **ケミカルリサイクル**
 - ・廃プラを粗原料に熱分解する開発技術を支援
(株) アールプラスジャパン

Recycle

(株)アールプラスジャパン
業界を超えた共同出資会社
包装容器製造、商社、飲料メーカーなど業界を超えた連携
2027年の実用化を目指す



- **バイオマス**
 - ・100%バイオマスの樹脂
PEF
 - ・植物由来の原料を約20%使用
"バイオブラーナ"
- **リサイクル樹脂**
 - ・PETボトルリサイクル樹脂を80%以上使用したフィルム
"サイクルクリーン"
- **モノマテリアル化**



"バイオブラーナ"使用

- **減容化・薄肉化**
 - ・厚みを1/2以下に薄くしたフィルム
"スペースクリーン" (20μm←40μm)
"サイクルクリーン" (12μm←30μm)



Reduce

環境に配慮した包装用フィルム

TOYOBO

包装用フィルム売上高に占める
環境配慮製品の比率



“サイクルクリーン” 減容化・薄肉化
リサイクル樹脂

PETボトルラベル用

“スペースクリーン” 減容化・薄肉化

飲料用ラベル用

低温高収縮性

“バイオプレーナ” バイオマス

“エコシールド”

・透明蒸着フィルム。脱PVDC、脱アルミ箔

・食品の賞味期限を延長し、**フードロスの減少**に貢献

・レトルト、ポイル食品、乾燥食品用

・透明蒸着フィルムの世界需要は、年率
10%成長



21

2050年カーボンニュートラル宣言



【2030年度 目標】

Scope1,2 : GHG排出量30%削減（2013年度比）

（今後、さらなる検討）

2020年度のGHG排出量削減実績 25.7%

燃料転換、再生可能エネルギー導入等

【2050年度 目標】

Scope1,2 : GHG排出ネットゼロをめざす

GHG削減貢献量 > 当社バリューチェーンのGHG排出量

CO₂分離膜技術、バイオプラスチックなど、各ソリューションの提供等により、
カーボンニュートラルの実現に貢献



All Rights Reserved

ご注意



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved